

論理学/坪井九馬三(講義) ; 畔上啓策(編輯)
(英吉利法律講義録(1886(明治 19)年度 第 1 年級))

講義録 33 号の目次には「論理学」と表示しているが、
本文冒頭には「論理学 後編」と表示している。

この PDF ファイルは、英吉利法律講義録(1886(明治 19)
年度 第 1 年級)(原装本デジタル・データ)から、論理
学の部分を抽出して編集したものである。

2015 年 7 月 中央大学大学史資料課

論理學 後編

文學士 坪井九馬三 講義

校 友 畔上 啓策 編輯

歸納法

第壹章 歸納法定義

歸納法ノ何物タルカハ既ニ前編ノ第一章ニ於テ之ヲ演繹法ト對照シ
 テ論辯シタレハ今茲ニ申サ、ルヘシ然レトモ歸納法ノ定義ヲ與フル
 前ニ申サデ叶ハヌ一義アリ其ハ何ソヤ曰ク歸納法ノモノタルヤ哲學
 ニマレ法律ニマレ行狀ニマレ學理研究ニマレ宇宙間萬般ノコト何ニ
 テモ原則トサヘアレハ此法ニ由ラサレハ出來難キコトナレハ歸納法
 ハ取リモ直サス原則ヲ考ヘ出ス總則トモ稱スヘキコト是ナリ故ニ歸
 納法ヲ特殊ノ原則ヲ考ヘ出ス爲ニ適用センニハ其場合相當ノ模様換

ナ加ヘテ而シテ後適用セサルヘカラス勿論此特殊ノ場合相當ノ模様
換テ要スルコトハ續釋法ニ於テモ歸納法ニ於ケルト異ナル所ナケ
レト歸納法ニ於テ特ニ然リトス蓋シ宇宙間ノ事實ニハ種々無量ノ
種類アリテ高尙ナルモノアリ淺近ナルモノアリ無形ナルモノアリ有
形ナルモノアリテ各其道ノ達人ナラデハ充分ニ知リ難キヲナルヲ以
テ如何ナル大方如何ナル耐忍ノ人ニテモ尽シ之ニ洞達センヲ求ムル
ハ無理ノコトナリ故ニ歸納法ハ到底完全ニ修メラルヘキ論理ニ非ス
然レトモ普通ノ學科ニ通シラレタル諸君ハ諸學科ノ一通リノ事實ヲ
心得ラル、ヲ以テ歸納法ナリトテ修メ難キニ非ス元來人智ニハ限ア
ルモノナルヲ以テ設ヘ特殊學科ノ達人ナリトテ其道ヲ尽ク得ラルヘ
キコトニ非サレハ何レ何處カニテ極限ヲ定メ其レ迄ノ處ニテ研究セ
サルヘカラス是ヲ以テ達人タリトモ學理研究ノ段ニ至リテハ其ノ凡

人ヲ去ルコト五十歩百歩ニ過キフ是レ歸納法ノ在リテ存スル所以又
其ノ修ムルヲ得ヘキ所以ナリ何レトモ歸納法ハ該博ヲ要スルモノナ
リト承知セラルヘシ却說歸納法ノ定義ニハ種々ノ說アレトモ矢張り
ミル氏ノ定義ヲ善トスヘシ然レトモ氏ノ定義ヲ明カラ様ニ述ヘテハ
其理解ニ苦マル、ノ嫌ナキ能ハサレハ茲ニ平易ニ咬ミ碎キテ陳述ス
ヘシ
先ツ宇宙間ノ萬物若クハ萬象若クハ事實ニハ寸毫モ違ハサルモノニ
箇トナキコトヨリ詳說スヘシ例ヘハ机ト云フモノアリ机トハ書ヲ讀
ミ文章ヲ書ク臺ノコトナリ然レトモ金屬製ノモアリ木製ノモアリ石
製ノモアリ象牙製ノモアリ又人ノ脊ナリトテ机トシテ用井難キニ非
スサレハ机ノ材ハ一定セス又設ヘ同材ノモノナリトモ必スシモ同質
ノモノナリトハ云フヘカラス又其製作ヲ觀ルニ其趣向ハ種々無量ニ

シテ工人ノ巧拙ノ顯ハル、ハ此ニアルナリ又同趣向ノモノナリトモ
必スシモ毫釐ノ差モナシトハ云フヘカラス又其寸法ヲ按スルニ此モ
前同様ニテ貴紳ノ居間ニアル舊風ノ粧飾机ハ小ニシテ低ク吾輩書生
ノ部屋ニアル新様ノ實用机ハ大ニシテ高シ又設ヘ同寸法ナリトモ必
シモ毫末モ異ナラストハ云フヘカラス帽子ニ於ケルモ衣服ニ於ケル
モ皆同様ナリ又風ニ於ケルモ雨ニ於ケルモ善行ニ於ケルモ犯罪ニ於
ケルモ契約ニ於ケルモ戰爭ニ於ケルモ皆異ナルコトナシ然ラハ萬象
即チ事實ハ尽ク相互ニ違ヒテ毫末モ相互ニ似タルコトハナキ歟ト云
フニ左ニ非ス萬物中ニハ往々相似タルモノアリ唯同物ニ非サルノミ
ナリ是レ則チ机ナリ帽子ナリ衣服ナリ風ナリ雨ナリ善行ナリ犯罪ナ
リ契約ナリ戰爭ナリ其他百般ノ事實各其名目アル所以ナリサレハ萬
物中ニハ純然タル同物ナキニモセヨ同物ニ甚タ近キモノアルヲ知ラ

ルヘシ此同物ニ甚タ近キ物ヲ集メテ一類トシ之ニ何トカ總名ヲ附シテ通常之ヲ呼ビ我モ人モ俱ニ承知スルナリ而シテ此ノ一類ヲ集ムルニハ何等ノ標準ノアルアリヤト尋ヌレハ唯其物ヲ用ヰル目的若クハ其物ノ性質中ニテ時ニ取リテ入要ノモノ、同一ナルニ近キニアルナリ例ヘハ書ヲ讀ミ文章ヲ綴ル用ヲ足ス物ヲ皆机ト云ヒ粒狀ヲ爲シテ空ヨリ落ツル水ヲ何時雨ト云フカ如シ然レトモ同一ナルニ近キ目的若クハ入要ノ性質ニモ制限アリテ普通道理ニ於テ其ノ目的若クハ性質ノ充分ニ近キコトヲ承認セサルヘカラス例ヘハ五里ニ二里ノ廣サニテ高サ三里ノ臺ハ之ヲ机トハ云ハス直徑三尺ノ水球ニ於テ空ヨリ落ナタリトテ誰モ之ヲ雨ナリトハ云ハサルヘシ蓋シ同一ノ度餘リ遠クシテ其ノ目的ヲ達シ若クハ其入要ノ性質ヲ備ヘサレハナリ故ニ事實ノ一類ヲ制定センニハ普通道理ニ由ラサルヘカラス而シテ普通道理

トハ實ハ漠然トシテ判カラサル語ナレトモ先ツ物ノ判カリタル人若クハ其道ニ達シタル人ノ承認スル所ノ眞理ナリト解スヘシサレハ普通道理ニモ随分高尙ナル原則アリト豫メ知ラルヘキナリサスレハ此ノ所謂事實ノ一類ヲ制定スル方法ハ了解スルニ足ルヘシ(既ニ同一ナルニ近キ目的若クハ時ニ取リテ入要ナル性質ヲ備ヘタル事實ノ一類例ヘハ書ヲ讀ミ文章ヲ綴ル爲ニ用井ル臺ノ用ヲ爲スモノ球形ヲ爲シテ空ヨリ落ツル水ノ如キモノヲ得テ之ニ何カ名目例ヘハ机トカ雨トカ云フコトヲ附シタリトセン斯ノ如キ思想即チ其名目ノ顯ス所ノ意義ヲ概念若クハ場合ニ依リテ概説ト云フナリ愚案ニテハ何處ニ在リテモ概説ト云フヘシ而シテ此ノ概説ヲ制定スル方法ヲ概括ト云フナリ茲ニ按スルニ人間ノ思想ハ奇妙ニ信スルヲ好ムモノニシテ疑ヲ挿ムハ殊ニ難キモノナリ又度アリシ事實ハ後來又出來ヘシト考フルコトモ

衆人ノ承認スル普通道理ナリ而シテ總テ事實ハ其何タルヲ問ハス皆
 何カ特殊ノ事情ヲ具ヘタルモノナリ語ヲ換ヘテ言ヘハ何カ下用意シ
 ミタルコトノアルモノナリ例ヘハ筆硯書紙アル處ニハ亦机若クハ机
 ノ用ヲ爲スモノ乃チ机モアリ空ノ曇リ氣壓ノ變動シタルトキハ雨ノ
 降ルガ如シ即チ筆硯書紙ノアルノ机ノアル事情ナリ空ノ曇リ氣壓ノ
 變動スルハ雨ノ降ル事情ナリ既ニ特殊ノ事情アリテ特殊ノ事實アリ
 タリ左レハ人間ノ信シ易ク一度アリタルコトハ又出來ヘシト思フ理
 ニヨリ後來ニ於テ既ニ觀タル下用意即チ前同様ニ充分近キ事情ノ若
 シアリタランコトハ何ソ前同様ニ充分近キ事實ノ無カラント思フナリ
 スノ如キハ未タ經驗セサルコト故唯一ノ假想ニ過キス之ヲ想考若ク
 ハ臆想若クハ臆說ト云フ愚案ニテハ臆說ノ語ヲ取ルヘシ而シテ若シ
 兼テ期シタル如ク特殊ノ事情アリテ而シテ特殊ノ事實ノ更ニアリタ

ランニハ是レ實驗ニ徴シテ臆説ヲ證明シタルナリ斯ノ如キヲ徴驗
 ルト云ヒ徴驗シタル臆説ヲ原則トス所謂歸納推論是ナリ例ヘハ筆視
 書紙ノアル處ニハ亦机ノアルヘシ空ノ曇リ氣壓ノ變動スルハ雨ノ降
 ルナリト云フカ如シ此ノ原則ヲ得ル方法ヲ歸納法ト云フナリ左レハ
 歸納スル方法ニハ三段アリ概説ヲ制定スルコト一ナリ概説ヲ化シテ
 臆説トスルコト二ナリ臆説ヲ化シテ歸納推論トナスコト三ナリ此ノ
 三段ヲ混淆セラレサル様御注意アルヘシ
 右ニ述フル所ハミル氏ノ定義ヲ平易ニ咬ミ碎キタルモノナリ而シテ
 之レニテ歸納法ノ定義ハ了解セラレタルヘシト信ス然レトモ誤解セ
 ラレサル様更ニ御注意申スヘキハ歸納スル順序中ニテ概説ヨリ臆説
 ニ移ツルトキニ既ニ經驗シタル僅々ノ場合ヨリ一足飛ニ後來ニ於テ
 經驗スルヲ得ヘキ歟モ計ラレサル無數ノ場合ニ移ルコト是ナリ是レ

誠ニ危険ナル論法ノ如クナレトモ實際ニ於テ止ムヲ得サルナリ蓋シ
人智ハ淺近ノモノナリ既ニニウトン氏モ學理ヲ研究スルハ猶ホ海濱
ニ出テ、砂ヲ數フルカコトシト云ハレジニ非スヤ左レハ人智ヲ以テ
萬象ヲ盡ク探ラントスルハ實際出來ヘキコトニ非ス又設ヘ出來ヘキ
トスルモ斯ノ如キ事業ハ是非トモ歲月ヲ多ク要スレハ人間一代ニテ
若クハ數代ニテ出來ヘキコトニ非ス現ニ三千年以來汲々トシテ修ム
ル學理ナルモ尙ホ其ノ詳ニセサルコト種々無量アルニテモ明瞭ナル
ヘシ故ニ余輩ハ一足飛ノ危険ナル論法ヲ用ヰテ一カ八カヲ試ミテ原
則ヲ制定セサルヲ得ス萬一、原則ヲ作り損ヒタラハ屈セスシテ更ニ試
ムヘキノミ否ナ設ヘ何百度ナリトモ爲直スル覺悟ナカルヘカラス是
レ原因相違ノ過ナドノ在ル所以ナリ是ニ由テ之ヲ觀レハ歸納法ハ既定
ノ事實ヨリ未定ノ事實ニ必ス移リ及ホスモノナリ故ニ既定ノ事實ノミ

チ述フルカ如キハ唯、概説タルニ止マリ決シテ歸納推論ニ非ス又歸納
推論ハ既定ノ事實ヨリ推測シテ未然ヲ豫期シ而シテ其豫期ハ必ス
實驗ニ於テ確實ナリト證明セラレサルヘカラス故ニ何々ノ事實ハ云
々ナラシムナド云フ如キハ臆説ノミニシテ決シテ歸納推論ニ非サルナリ
又歸納推論ハ僅少ノ場合ヨリ論斷シタルモノニ相違ナケレトモ其僅
少ノ場合ニテ同一ナルニ充分近キ事實ノ一類ノ見本ヲ得タリトノ
確證ナカルヘカラス若シ此ノ確證ナケレハ所謂枚舉歸納ニシテ過ナリ
例之ハ田舎愚人ノこづく様ノ偶然ニ當リタルヲ知ラスシテ何時モ
當ルト思ヒ東京愚民ノ水天宮ノ御符ヲ用弁タルトキ偶然ニ癩ノ沈マ
リタルヲ以テ該御符ハ何時モ癩ヲ直シ賜フト考フルカ如シ而シテ其
ノ確證トハ如何ナルモノ歟又確證ハ如何ニシテ得ラルヘキ歟ハ次章
ニ於テ説明スヘシ

第一章 歸納法原理

前章ニ於テ述ヘタル如ク歸納セシムルニハ先ツ事實ヲ概括セサルヘカラ
 ス而シテ概括セシムルニハ其事實ノ一類ヲ集メサルヘカラス此ノ事實ノ
 一類ヲ集ムレハ言語ニテ述フレハコソ易ケレ之ヲ實際ニ行ハントセ
 ハ大ニ其困難ナルコトナルヲ知ラルヘシ蓋シ人智ハ極メテ淺キモノ
 ナレハ何程ノ量マテ同一ナルニ充分近キ事實ヲ集ムヘキヤ何程ノ度
 ニマテ近キ事實ヲ收メテ然ルヘキヤ實ニ困難ナルモノトス斯ノ如キ
 ハ皆研究セントスル特殊ノ事實ノ一類ノ特性ニ由ルコトニシテ其ノ
 場合ニ應シテ臨機ニ取捨スル所ナカルヘカラス而シテ此ノ取捨ヲ行
 フ標準ハ普通道理ニ在ルナリ何レニテモ之ヲ汎説セハ互ニ相乖戾セ
 サル事實ニシテ同一ナルニ充分近キモノ、ミヲ採ルヘシトノ義ナリ
 トス故ニ凡テ事實ノ一類ヲ調査セシムルニハ必ス先ツ在來ノ經驗ニ徴シ

テ嘗テ乖戾シタルコトナキコトヲ證明セサルヘカラス次ニ又其ノ乖
 戾スルコトアル筈ナキコトヲ證明セサルヘカラス前章末ニ所謂確證
 トハ是ナリ故ニ確證サヘ擧カラハ其事實ノ一類ハ纔ニ一箇若シハ
 二三箇ノ場合ヨリ得タルモノナリトモ其ノ確實ノ一類タルニ害ナシ
 此ニ乖戾ト云ヘルハ前編ニ屢々云フ所ノ乖戾ト同意ニシテ氷炭相容
 レサルモノ若シハ自家撞着ノ意味ナリ例之ハ白キモノハ同時ニ於テ
 白カラサル同一物トハ決シテ俱ニ存在シ難キコト孟子ハ同時ニ於テ
 孟子ニ非サル人ト同人ニ非サルコトト云フカ如キ勿論ノ義ニシテ之
 ナ白キモノハ同時ニ於テ白カラサル同一物ト俱ニ存在ス孟子ハ同時
 ニ於テ孟子ニ非サル人ト同人ナリト云フカ如キハ自家撞着タルヘシ
 若シ斯ノ如キ自家撞着アラハ集メタル事實ハ幾百萬アルトモ完ク無
 効ニ屬スヘク之ヨリ概括シテ其ノ一類ヲ制定シ難キナリ又設ヘ在來

ノ所ニテハ乖戾シタルコトナキモ人智ハ固ヨリ未然ヲ洞察スルコト能ハサレハ後來ニ於テ如何ナル變動ヲ生スヘキ歟モ計リ難シ故ニ在來ニ於テ乖戾セサルコト其レ自身ニテハ毫モ後來マテニ及ホスヘキ豫期ハ出來サルナリ故ニ在來ノ經驗ニテ得タルコトノミヨリ設ヘ後來幾百萬ノ數ニ及フ同一ナルニ充分近キ事實ヲ得ルトモ在來ノ經驗ニ乖戾スルコト能ハサル所以ヲ證明セサルヘカラス而シテ之ヲ證明スルハ普通道理ニ依ルノ外ナシ例之ハ朽木地方ニテ某家ノ主人其ノ妻ノ他人ニ私通シ居ルヤ否ヤチこつくり様ニ伺ヒタルニ私通シ居ル旨答辨アリ主人大ニ其ノ妻ノ貞操ナキヲ怒リ直ニ之ヲ離婚シタリ妻ノ實家ニテハ大ニ之ヲ異シミ百方其離婚セラレタル妻ヲ誥ルト雖トモ其ノ私通シタル證據ヲ得ス依テ又こつくり様ニ伺ヒタルニ私通シ居ラサル旨答辨アリタリト斯ノ如キハ纔ニ二箇ノ場合ナリト雖モ相

乖戾スルヲ以テこつくり様ニ奇異ノ神慮ナキコト明ナリ蓋シこつくり様ノモノタルヤ唯一ノてづまニシテ伺ニ答フルモノ自分ニ於テ先ツ之ヲ審斷シ而シテ後指先ニテ飯櫃ノ蓋ノ可然處ヲ壓シ以テこつくり様ノ足ヲ舉クレハナリ水天宮ノ御符ノ如キモ其乖戾スルコトハこつくり様ニ異ナラテトモ其ノ作用ノ生理上心理上ニ據ルヲ以テ之ヲ看破スルハこつくり様ヨリ難シトス蓋シ人心ノ信仰ハ生理ニ甚タシキ影響ヲ有スルモノニシテ諺ニモ此ノ勢力ヲ^{イハシ}鰻のあたまも信心のらト云ヘリ醫師ノ其藥名ニ六カ敷キ語ヲ用ヰ方箋ニハ或ハ羅旬語ヲ用ヰルナド皆此ノ諺ヲ利用シタルモノナリ水天宮ノ効力モ此ノ信心ト偶然トノ二途ニ由ルコトナレハナリ又例之ハ鴉ハ五大洲中ニテモ何處ニ行クトモ皆黒シト云ヘリ然レトモ動物學者ハ鴉ハ黒色ナラサルヘカ^ラトハ云ハス蓋シ普通道理ニ照スモ其ノ乖戾スルコトアルモ計リ

論理学/坪井九馬三(講義) ; 畔上啓策(編輯)

(英吉利法律講義録 (1886(明治19)年度 第1年級))

15ページ以降の講義録(37号以降)は非所蔵